

1 単元名 昔からの遊びをしよう

2 目 標

伝承遊びに興味をもち楽しく活動したり，高齢者に進んでかかわったりすることができる。

(関心・意欲・態度)

安全な遊び方や使い方について考え，工夫することができる。(思考・表現)

自分が分かったことについて考えて表現したり，高齢者のことについて表現したりすることができる。

(思考・表現)

高齢者とふれ合うと楽しいということに気付き，高齢者の良さや知恵のすばらしさに気付き，感謝や尊敬の気持ちをもつことができる。(気付き)

昔の遊びの楽しさに気付くことができる。(気付き)

3 単元の構想図

生活科の時間(11) 子どもの学びの姿(評価)	児童の意識の流れ	教科・領域の学習
<p>1 遊びについて考えよう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな遊びを学校や家庭でしているか考える。</li> <li>・昔の遊びについて考える。</li> </ul> <p>昔の遊びに興味をもち，遊びについて調べようとしているか。</p> <p>* 家の人に聞く。(課外)</p> <p>2 昔の遊び方を工夫しながら遊ぼう。(2)</p> <p>安全な遊び方や使い方について，考えたり，工夫したりすることができたか。</p> <p>友達と仲良く協力して昔遊びをすることができたか。</p> <p>3 昔の遊びを高齢者に教えてもらいながら，一緒に遊ぼう。(3)</p>	<p>学校 ・一輪車乗り ・鉄棒 ・おにごっこ ・ボール遊び</p> <p>家庭 ・ゲーム ・ボール遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔はどうやって遊んでいたのかなあ。</li> <li>・昔の遊びをしてみたいなあ。</li> <li>・家の人に聞いてみよう。</li> <li>・先生に聞いてみよう。</li> <li>・地域のお年寄りに聞いてみよう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいけど，うまくできたよ。</li> <li>・もっと上手になりたいなあ。</li> <li>・こうやってしたらうまくできたよ。</li> <li>・もっと練習して上手になりたいなあ。</li> <li>・自分ばかり昔の遊び道具を使わないで友達にも貸してあげよう。</li> <li>・お年寄りに教えてもらったら，もっと上手になるかもしれない。</li> <li>・お年寄りに教えてもらおう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りに教えてもらおう。</li> <li>・大きい声ではっきり言わないと聞こえ</li> </ul>	<p>&lt; 生活 &gt; 2年授業参観</p> <p>&lt; 道徳 &gt; 「いなりやまのこんたろう」 礼儀 2 - (1)</p>

- ・分からないことを尋ねながら，遊ぶ。
- ・遊んだことを表現する。

高齢者と上手にかかわりを持ちながら遊ぶことができたか。

高齢者の良さや知恵に気付き，尊敬の気持ちをもつことができたか。

遊んだことを表現することができたか。

- 4 高齢者のことを知るために，インタビューする内容を考えたり，練習をしたりしよう。（3）

高齢者にインタビューする内容を考えることができたか。

インタビューする練習をし，友達にアドバイスをすることができたか。

- 5 高齢者にインタビューをしよう。（1）

<本時>

高齢者に思いやりの気持ちをもって進んでかかわることができたか。

高齢者にインタビューしたり，自分のことを伝えたりすることができたか。

- 6 昔の遊びのまとめをしよう。（1）
- ・活動の反省や感想を書く。

高齢者のすばらしさに気付き，尊敬の気持ちをもち，表現することができたか。

- ないかもしれない。
- ・上手に話ができるかな。
- ・お父さんのころと同じような遊びをしている。
- ・おじいさんのころとは遊びが違うなあ。
- ・いろいろな遊びがあるのなあ。
- ・遊び方がよく分からないなあ。教えてもらおう。
- ・いろいろなことができてすごいなあ。
- ・もっとお年寄りのことを知りたいなあ。話がしたいなあ。
- ・もっと仲良くなりたいなあ。

- ・家で毎日どんなことをしているんだろう。
- ・どんなことが好きなんだろう。
- ・好きな動物や食べ物はなんだろう。
- ・だれと住んでいるのだろう。
- ・何才なんだろう。
- ・大きな声ではっきり話そう。
- ・話を聞くときには，目を見て聞こう。

- ・気持ちの良いあいさつをしよう。
- ・大きな声ではっきり言おう。
- ・お世話になったから気持ちを込めて肩たたきや握手をしよう。
- ・上手に話ができるかな。

- ・昔の遊びは今の遊びと違っていて，いろいろな工夫がある。
- ・お年寄りに教えてもらって楽しかった。
- ・お年寄りは優しいなあ。
- ・お年寄りはいろいろなことを知っているなあ。

< 道徳 >

「まっけてね」

思いやり・親切

2 - ( 2 )

< 道徳 >

「たけとんぼづくり」

感謝 2 - ( 4 )

#### 4 指導上の立場

##### (1) 題材について

この単元は、学習指導要領の内容(3)

自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

を受けて、設定した。

地域は、児童にとって生活の場であるとともに大切な学習の場である。そして、児童の生活は、地域の様々な人々とかかわることによって豊かになっていく。しかし、今日の児童は、核家族・少子化・高齢化などの影響があり、人と人とのつながりが希薄化しており、この傾向は、都市部・農村部に限らず今後さらに強まっていくことが予想される。このような現状と課題を踏まえて、身近な人々とのふれ合いを重視した。

本単元は、昔の遊びについて話し合ううちに、地域の高齢者に教えてもらえばよいということに気付き、一緒に遊ぶことによって、進んで地域のお年寄りにかかわったり、お年寄りの優しさや知恵のすばらしさに気付いたり、感謝の気持ちをもたせることを主なねらいとしている。一緒に遊ぶうちに、もっと高齢者のことについて知りたい、話をしたいという気持ちになるであろう。そして、話が進んでできるように、コミュニケーション能力を身に付けさせたい。高齢者と話をすることで、コミュニケーションが深まり、人とのかわりを大切にする心が育つであろう。

##### (2) 児童の実態について

本学級の児童は、祖母と同居している児童が2名、祖母が入院している児童が1名、祖父母が家の近くに住んでいてよく交流している児童が3名、近くには住んでいなくてあまり交流がなさそうな児童が3名である。普段の会話の中に、祖父母の話はほとんど聞かれない。日常的に高齢者と話をしたり、かかわったりする経験が少ない児童が多いと思われる。

今までの地域の高齢者とのかかわりは、学習で校外に出たときにあいさつをしたり、花の植え方を教えてもらったり(全校)、野菜の作り方を教えてもらったり(1年生活科)したぐらいである。生活科では、上級生の祖母ということで、親しみはあったようだが、話しかけられると答えてはいたが、自分から進んで話をする児童は、少なかった。

2年生が高齢者と交流しているのを見たことで、親近感を持ち、交流したいという気持ちが高まってきている。

##### (3) 本時の指導

本時は、昔の遊びを教えてもらった地域の高齢者と話をする活動を通して、もっと高齢者と仲良くなる場面である。インタビューをすることで、高齢者に優しい気持ちをもって進んでかかわったり、コミュニケーション能力や技能を高めることをねらっている。

地域の高齢者には昔の遊び方を教えてもらって、一緒に遊ぶという交流を体験している。しかし、高齢者のことについては、名前ぐらいしか知らない。そこで、高齢者についていろいろな話をして、もっと仲良くなろうという課題を設定する。高齢者を迎えるときには、親近感を持たせるために、児童に案内させたり、楽しい雰囲気づくりのために歌を歌ったりする活動を取り入れる。そして、高齢者と話をするときの留意点を確認する。それから、ふれあい活動をして話しやすい雰囲気づくりをしてから、高齢者にインタビューするようにする。話が一方通行にならないように、自分のことも紹介しながら話をさせたい。話が行き詰まったときには、教師も話に加わり支援をする。そして、高齢者からの話を聞くことで、高齢者とかかわることの大切さに気付かせたい。

##### (4) 研究主題とのかかわり(体験・交流活動を通し、人権感覚高揚をめざした学習の研究)

高齢者に昔の遊びを教えてもらったり、一緒に遊んだりする体験・交流活動を通して、高齢者の優しさや良さや知恵のすばらしさを感じ取ったり、感謝の気持ちを持ったりすることができると考えている。体験・交流活動をする中で、高齢者のことを思いやる行動を考えたり、恥ずかしがらずに話をしたり、進んでかかわったりすることが人権感覚の高揚につながるのではないかと考える。

体験・交流活動をするときには、高齢者と恥ずかしがらずに話をしたり、活動を一緒にしたりすることが

大切である。そのためには、体験・交流活動の回数を増やしたり、コミュニケーション能力や技能を身に付けさせたりしたい。また、生活科で体験・交流活動するだけでなく、道徳では、「礼儀」「思いやり・親切」「感謝」の価値を関連付け、人権感覚を高揚させ、研究主題に迫っていきたい。

## 5 本時案

ねらい	昔の遊びを教えてもらった高齢者に、思いやりの気持ちをもって進んでかかわったり、コミュニケーションを深めたりすることができる。	
学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	教 師 の 支 援
1 本時のめあてを確認する。	今日のめあてを読みましょう。  おとしよりにインタビューしてもっとなかよくなるう。	・本時の学習は、高齢者ともっと仲良くなる活動であることを確認する。
2 気を付けることを確認する。	・上手にできるように頑張ろう。  気を付けることは、こうでしたね。 ・優しくしよう。 ・大きな声ではっきり話そう。 ・目を見て話そう。	・気を付けることを確認することにより活動しやすくする。
3 高齢者を迎える。  ・あいさつ  ・歌を歌う。	会議室までお年寄りを迎えに行こう。 ・手を引いて、ゆっくり歩いて連れてこよう。 ・大きな声で気持ちの良いあいさつをしよう。 ・お年寄りに喜んでもらえるために、上手に歌おう。  ・手を引いている。 ・お年寄りの歩く速さに気を付けている。 ・座るときに声掛けをしている。 ・大きな声で気持ちの良いあいさつをする。	・子どもたちが高齢者の案内をすることによって、親近感が生まれるようにする。 ・歌を歌うことによって楽しい雰囲気づくりができるようにする。
4 高齢者にインタビューをする。  ・自己紹介  ・ふれあい  ・インタビュー	お年寄りにインタビューをしましょう。 ・きちんとあいさつをしよう。 ・上手に自己紹介をしよう。 ・握手をしよう。 ・肩たたきをしよう。 ・好きな食べ物は？ ・何才なの？ ・好きな飲み物は？ ・好きな歌は？  お茶を入れましょう。 ・こぼさないようにしよう。 ・遠慮されても出そう。  ・大きい声で話す。 ・目を見て話す。	・互いに話しやすい雰囲気にするために座って話ができるようにする。 ・自分のことも話しながら、インタビューをするようにする。 ・高齢者と上手にかかわっている児童を称揚する。 ・話が行き詰まったときには、教師も加わり、話しやすい雰囲気作りに努める。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りの話をきちんと聞く。</li> <li>・丁寧な言葉遣いで話す。</li> <li>・声掛けをしながら，ふれあいをする。</li> <li>・礼儀正しいあいさつや返事をする。</li> </ul>	
5 高齢者の話を聞く。	<p>お年寄りの話を聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目を見てしっかり話を聞こう。</li> <li>・お年寄りに喜んでもらってよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に子どもたちと一緒に遊んだり話をしたりしたことが楽しかったことを話してもらうことによって，交流して良かったという満足感が得られるようにしたい。</li> </ul>
6 今日の活動を振り返る	<p>お年寄りに優しくできたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手を引いた。</li> <li>・優しく言った。</li> <li>・肩たたきのとき，優しくした。</li> <li>・よく分かるように大きな声で話した。</li> </ul> <p>楽しかったことや頑張ったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優しく話をしてくれた。</li> <li>・いろいろな話ができた。</li> <li>・優しくすることができた。</li> <li>・また，学校へ来てほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に優しくしたことや楽しかったこと，高齢者とのかわりなどを振り返ることによって本時のまとめとする。</li> <li>・今日の活動で良かったことを賞賛しこれからの活動への意欲付けをする</li> </ul>
7 高齢者を送る。 ・接待	<p>会議室へ案内しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は，楽しかったよ。</li> <li>・また，一緒に何かしたいなあ。</li> </ul> <p>・手を引いている。</p> <p>・高齢者の歩く速さに気を付けている。</p> <p>・話をしながら，案内している。</p> <p>・「どうぞ。」と言いながらお茶を出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで拍手をして，お礼を言うことによって感謝の気持ちを伝えたい</li> <li>・最後まで案内することで，前よりも仲良くなったことを実感させたい。</li> </ul>

## 6 研究協議

- ・高齢者を迎えたり，送ったりするときには，うれしそうな表情で思いやりの気持ちをもってかかわることができた。
- ・だれがどの高齢者を案内するのか相談していなかったが，昔遊びをしたときペアになった高齢者を案内していた。
- ・高齢者が全員そろって，歌を歌うときには少し緊張していた様子だった。
- ・歌は，児童の好きな歌だったので，高齢者も一緒に歌うことができるようなものにすればよかった。
- ・自分がメモしていたことに頼らないで，インタビューしていた。忘れたときには，見ながらしていた。
- ・高齢者に反対に質問されて，上手に受け答えをしている児童もいたが，恥ずかしがっている児童もいた。
- ・耳が遠くて聞こえにくい高齢者の方に気付くことができなくて困っていた児童がいた。反対に高齢者の方が聞こえにくい仕草をされたら，ずっと耳元に行って，大きな声で話をしている児童もいた。
- ・児童も高齢者もにこやかな表情ですることができた。
- ・たくさんインタビューする内容を用意していたが，早く終わって話をすることがなくなってしまった児童がいたので，最初に配慮すべきであった。

- ・話をすることが苦手で、高齢者との話ができにくそうな児童の近くで支援するようにしたが、支援の仕方が難しかった。
- ・初めて来られた高齢者の方が一人おられたが、今までに交流していないので、児童は恥ずかしそうな感じをしていた。
- ・事前にスキルの活動をしないで、内面からの本当の話をするにはどうしたらよいか。そのためには、交流の体験の回数を多くしたり、共通の体験活動を設定しなければいけない。
- ・高齢者の方が何人来られるのか分からなかったが、ほぼ児童の人数と同じ人数の方が来てくださって、一対一でインタビューすることができてよかった。
- ・今回は、児童からのインタビューが中心であったが、反対にインタビューしてもらって答えることをするのがあってもよかったのではないか。
- ・やっと慣れてきたと思ったら次の高齢者に交替したので、もう少し長い時間交流すればよかったのではないか。
- ・話がしやすい座り方があるのではないか。
- ・振り返りの活動のとき、1年生なりに振り返りがよくできていた。
- ・1学期から高齢者との交流を考えた年間計画にすれば良かった。
- ・高齢者の方の得意な遊びを把握するのが難しかったので、人材リストを作成することが必要である。

## 7 成果と課題

### 成果

- ・高齢者の優しさ、すばらしさを感じ取り、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・障害児学級の児童が、高齢者にこま回しを教えてもらい、興味をもち練習を頑張って上手になり、友達に認められ自信につながった。
- ・興味をもった遊びを上手になろうと、頑張って練習する姿が見られた。
- ・得意な遊びを友達に教えたり、教えてもらったりすることで、友達に対して優しくしようとする態度が身に付いてきた。
- ・昔の遊びをしたときとインタビューをしたときの高齢者の方がほぼ同じだったので、親しみを感じて喜んで活動することができた。同じ方と継続して交流したことが良かった。
- ・高齢者の方は子ども好きで、児童に上手に話し掛けてくださるなど、人と積極的にかかわっておられる方ばかりだったので、交流がうまくいった。
- ・コミュニケーション能力や技能を身に付けるために事前に時間設定をしたり、友達と練習したりしたことは、高齢者と話をするのに効果的であった。
- ・高齢者に尋ねたいことを自分の力で考え、書いたり話したりすることができたので、この表現力を国語の時間に生かすことができる。
- ・2年生の授業を見学したことを生かして活動をすることができた。高齢者と交流した経験がなく、家庭でも同居していない児童の多い1年生にとっては、有意義であった。
- ・簡単な評価カードを使ったり、言葉で発表したり、文章で書いたりするなどいろいろな形式で活動を振り返ることで、次の活動に生かすことができた。

### 課題

- ・高齢者の得意な遊びについて、把握することが難しかったので、いろいろな分野の人材マップを作成することが必要である。
- ・高齢者の方と事前に詳しい打ち合わせをする時間をとることは、なかなかできにくかった。打ち合わせがなくてもいいような活動計画の作成が必要である。
- ・共通の活動をしながらかと高齢者と自然な形で話ができるようにするには、交流の回数を重ねることなので、1学期から交流をするような活動計画を立てるべきだった。
- ・道徳の学習でも、高齢者の方にゲストティーチャーとして来ていただければ、交流にもなるし、道徳の実践化にもつながると思われる。